

多言語多文化研究に向けた複合型派遣プログラム
派遣研究報告書

2012年 11月 11日

派遣者氏名（専門分野）	白岩広行	（	日本語学	）
-------------	------	---	------	---

下記のとおり報告します。
記

研究テーマ	ブラジル日系社会における言語接触の諸相
-------	---------------------

派遣期間

2012年 8月 5日 ～ 2012年 10月 3日

	国	都市	訪問機関	受入研究者
訪問研究機関	ブラジル	サンパウロ	ブラジル福島県人会、個人宅等	なし

派遣先で実施した研究内容

ブラジル日系移民を対象に、自然談話の録音をおこなった。今回は、移民社会における東日本／西日本方言の接触の様相を記録することを目的とし、特に東日本最大の移民県である福島県の出身者を中心に調査をおこなった。録音調査は、以下の3地点においておこなった（なお、以下、単に「1世」「2世」と書くときには福島県出身の1世、福島県にルーツを持つ2世を指すことにし、他県の出身者の場合は特記する）。

(1) サンパウロ市内：ブラジル福島県人会

サンパウロ市内リベルダージ地区にあるブラジル福島県人会において調査をおこなった。ここでは2012年3月にも科研経費で調査をおこなっており、そのとき以来の再訪となった。以下の談話を収録している。

- (1-1) 1世1名－2世2名－調査者による座談会形式の談話（約70分）
- (1-2) 1世1名（山形）－調査者による談話（約100分）

(2) ピラール・ド・スール市：個人宅

サンパウロ近郊のピラール・ド・スール市において、個人宅で世話になりながら調査をおこなった。以下の談話を収録している。

- (2-1) 1世1名－調査者による談話（約60分）
- (2-2) 2世1名－調査者による談話（約30分）
- (2-3) 1世4名（鹿児島2名、福島1名、新潟1名）・2世（鹿児島）－調査者による座談会形式の談話（約60分）
- (2-4) 約20名の婦人会会員（世代や出身はバラバラ）が敬老会の食事の準備をしている様子の録音（約170分）

(3) アチバイア市：催事場（エジムンド・ザノニ公園）

サンパウロ近郊のアチバイア市において開催された Festa de Flores e Morangos（花と苺の祭）に出店していたアチバイア福島県人会の出店を訪問し、録音調査をおこなった。以下の談話を収録している。

(3-1) 1世2名による談話（約30分）

(3-2) 2世3名－調査者による座談会形式の談話（約50分）

以上、総計で約570分の談話を録音した。音質等を考慮して選定する必要があるが、これらの談話は帰国後に文字化して整備する予定である。

なお、これらの各地点には、調査のない日も繰り返して訪問し、次回以降の調査につながるよう、信頼関係の構築にあたった。そのほか、ブラジル日本文化福祉協会図書館やサンパウロ人文科学研究所、ブラジル福島県人会事務室などを訪ねて、随時、県人会名簿など関連資料の収集にもあたった（いずれもサンパウロ市内）。

なお、2012年3月に科研経費で調査した際にブラジル福島県人会で収録した以下の談話を、滞在中の空いた時間に文字化している。

■ 文字化の済んだ資料（2012年3月の科研調査時に収録したもの）

(1) 1世2人（福島、山形）、調査者による談話（約30分）

(2) 1世2人による談話（約30分）

(3) 2世2人による談話（約30分）

(4) 2世2人による談話（約30分）

文字化した上記の資料は、成果の速やかな還元を実現するため、および、内容を確認していただくため、印刷してファイルに綴じたうえで協力者本人に渡している。

（付記：滞在期間中のおおよその日程について）

滞在期間中、8月は主に調査の準備やネットワークの構築をおこないながら、3月に録音した上記談話の文字化をおこない、当地の日本語変種のおおよその特徴をつかむことに時間を費やした。日本各地の方言やポルトガル語が混じる120分の談話は、文字化するのに相応の労力と時間を要した。しかし、当地独特の単語や表現について、その都度、現地の日系人や研究者に確認することができたため、日本にいるときよりも能率的に作業を進めることができたと考える。そのうえで、9月前半に新規談話の録音をおこない、上記のとおりデータを得た。9月後半は、録音した資料を整理しながら、関連機関の日系人関係資料をコピーしたり、調査地を再訪して信頼関係を深めたりすることに費やしている。

研究の当初の目的・計画の達成状況、明らかにできた成果

本研究の目的は、ブラジル日系人の言語使用をとらえるうえで、これまであまり注目されてこなかった東日本／西日本方言の接触という事象を記録するための談話資料を作成することである。西日本出身者が多数を占める移民社会において、東日本出身者がどのような西日本方言の特徴を受容しているかを明らかにするため、東日本最大の移民県である福島県出身者を対象にした。

計画段階では、当地の移住者どうしの談話を多く録音する予定だったが、実際には、会話が續かないなどの理由でそのようなセッティングが難しく、調査者を相手にした談話が多くなった。この点は反省材料だが、調査地を繰り返し訪ね、親交を深めた結果、対調査者の談話でも比較的くだけたスタイルの談話を引き出すことができたと考える。また、収録した談話の時間数は上記のとおりであり、言語的な特徴を分析するうえで、ひとまず十分な量の談話を確保できた。前回の科研経費での調査分（2012年3月）にあたるが、滞在中

に約 120 分の録音データを文字化することもでき、当初の目的はおおよそ達成できたと考える。

なお、調査の過程で、当地の福島県出身移民の言語の特徴について、おおよそ次のことが把握できた。

- ・ これまでの先行研究で指摘されているのと同様にポルトガル語の語彙が混じる
- ・ 方向を表す「サ」、意志・推量の「ベ」など、東北方言に特徴的な文法事象はほとんど観察されない
- ・ 事態の継続を表す「トル（テオル）」、否定を表す「ン」など西日本方言に特徴的な文法事象が成人後に移住した 1 世であっても頻繁に使用される。また、東日本方言形式の「テル（テイル）」「ナイ」などとの間に一定の使い分けの規則も見られる。
- ・ 音声面では福島方言の特徴が残りやすく、特にアクセントは 2 世であっても無型のままである
- ・ 西日本方言と東日本方言（福島方言）の接触の様相には個人差があり、各話者の生活史をふまえて分析する必要がありそうである

今後、録音データの文字化をさらに進めることにより、より具体的な分析を深めてゆきたいと考える。

なお、滞在期間が長かったために、各地の協力者と親交を深める機会に恵まれた。今後の調査活動につながる信頼関係を得たことも、大きな成果であった。

派遣後の研究発表の予定

録音した音声を文字化し、文字化資料として報告書にしたいと考えている。報告書の印刷経費については別途都合をつける必要があるが、調査協力者は高齢の方が多く、研究の成果はなるべく早く協力者に届けたい。

また、文字化資料を分析して、日本語学会、社会言語科学会、日本方言研究会など、関連の学会や研究会で発表し、学会誌に論文を投稿することを予定している。文法面、音声面、社会的側面など、分析の観点はいくつもあるので、少なくとも学会誌論文を 1~2 本、紀要論文を 2~3 本程度は書きたいと考えている。

そのほか、現在、他の研究者と共同でハワイ移民の言語について研究を進めているが、この共同研究と連動し、ハワイとブラジルを対照させる形で、国際学会での成果発表も視野に入れている。日程・費用の都合がつけば、ブラジル国内で開催される日本関連の学会（Encontro Nacional de Professores Universitários de Língua, Literatura e Cultura Japonesa）でも発表をおこないたい。



福島県人会のカラオケ大会で協力者探し
(サンパウロ市リベルダージ地区)



ピラール・ド・スール市遠景



個人宅ホームパーティーでの談話の様子
(ピラール・ド・スール市)



催事場の県人会出店で開店前の時間に談話収録
(アチバイア市)